

SHEKA MUNONGA!

青年海外協力隊・村落開発普及員 佐々木 梢の活動レポート



ウガンダ共和国ブシェニ県

BUSHENYI, REPUBLIC OF UGANDA

ついに来たど～ アフリカさ！

青年海外協力隊・村落開発普及員として、ウガンダ共和国のブシェニ県庁で一村一品運動に取り組む事になりました。ホジつけて頑張るど～

「ウガンダ」ってなんだ国だべ？

アフリカ大陸のほぼ中央に位置する赤道直下の国「ウガンダ共和国」。

山と湖に囲まれ、その緑の美しさに、「アフリカの真珠」とも呼ばれています。日本の本州ほどの面積に約3342万人が住んでおり、公用語は英語とスワヒリ語。その他、ガンダ語など民族語が数多くあります。

私が赴任することになったのは、南西部のブシェニ(Bushenyi)という県です。ここではニャンコレ語というとてもめんこい響きの言葉が話されています。

ウガンダ人の第一印象は、「素朴な照れ屋さん」意外かもしれませんが、控え目で声が小さい人が多いんです。

ブシェニの人達は、特に「働き者」が多いとか。挨拶や人との距離感やペースを大切にする気質がとても温かく感じます。

秋田の「のんびりさ」と

それ程変わらないかも？!

赤道通過地点にて



発行：2012年8月20日

主な出来事

4月11日

福島県二本松訓練所に入所

語学を中心に、任国における健康管理、安全対策、異文化体験に関する講義を受けました。

6月14日

訓練を無事修了

共に共同生活をし、課題を乗り越え、夢を語り合い、一生の仲間と出会う事が出来ました！



6月末～7月中旬

ついに到着～首都で現地訓練

首都カンパラで、安全対策や健康管理に関するオリエンテーションを受けました。現地語ニャンコレ語も！

7月16日

任地ブシェニ県へ赴任

パピルスが広がる湿地帯やサバンナのような高原を抜け、遂に赴任地へ到着。さあ、ここからが本番開始。

8月2日

一村一品ワークショップ

初のカンパラ出張。ウガンダにおける一村一品運動の進行状況を評価するワークショップへ参加。

こんなふうに暮らしてらよ～！

県庁内の一村一品事務室

わたしの配属先は、ブシェニ県庁内にある「一村一品運動事務室」

窓からは広い緑の丘が見渡せます。

まだ分からない事ばかり・・・毎日「ンポランポラ」に（ゆっくりと）人間観察からはじめています。



ウガンダ料理は主食がいっぱい

一番の特徴は、主食の種類の多さ！マトケ（緑のバナナ）、ポショ（トウモロコシ）、キャッサバ、スイートポテト、かぼちゃなど・・・

ブシェニでは、ヒエの餅（カロー）が有名です。旨んみゃ～！



畑が見渡せる一軒家

オラエはこんな感じ。

「いつかマンゴーとアボカドとハイビスカスがある家に住んでみてなあ～」

という夢が一気に叶いました。ブーゲンビリアも咲いでらよ！グアバもとれるよ！

ヤモリにも慣れて来たよ～！

水道・電気

私の家では幸運な事に、水道と電気が整っています。「水道水」は外のタンクから来ていて、濾過し、煮沸消毒すると安全に飲めます。電気も毎日使えます。

写真は、裏のバナナ畑で電気復旧工事をするお兄さん。スラスラ電柱にのぼる～！



【ブシェニ県からのご挨拶】

ブシェニ県では、一村一品運動からヒントを得て農産業振興と地域活性化を目指す取り組みがおこなわれています。農家の収入向上が生活改善や豊かさにつながるからです。

地域活性化に向けた住民の意識改革は時間がかかるため、村落開発の現場では我慢強さが求められます。しかし、私達はJICAを通じて日本の皆さんの協力のもとに、確実にそれが達成出来ると信じています。

デビッド＝ビヤムカマさん
ブシェニ県庁 商業課長



秋田を発見？

任国ウガンダへ到着して未だ一ヶ月余り・・・赤道直下のこの国で、秋田との意外な共通点を発見！

ことば

「あや～」「じゃっじゃ」

ブシェニの現地語「ニャンコレ語」驚いた時「あや～」、おばさんを「じゃっじゃ」と言うらしい。秋田弁とルーツ一緒だべが？

キタガタ？ん、キサカタ？

ウガンダには、日本語に似ている地名が沢山あります。ジンジャ、トロロ、ヒマ、マサカ、ナグル・・・チタガタという村も！早口で言ったら象湯みでんたネ！

山・湖・温泉

国立公園の広がる場所

「田沢湖は、山と湖と温泉の町」ウガンダ南西部も同じ！赤道直下なのに、高山地帯だからとても過ごしやすい。田沢湖の夏といっしょ！

山の恵みが豊富

美味しい蜂蜜

植生が豊かなウガンダ共和国。特に西部は、美味しい蜂蜜の産地としても有名。八幡平の恵みを思い出す！

きのか栽培

一年に雨期が2度もあり気温が安定しているため、きのか栽培もされているようです。コットン（綿花）を菌床にして、エリンギやモダシに似た茸を育てています。

アフリカでコメ作り初体験！？ 一日で田植えも稲刈りも体験したよ(^ ^)

首 都カンパラ近郊のナムロ
ンゲにある農業試験場。
そこでは「ネリカ(NERICA)米」
という品種が研究されています。

それは、アフリカイネとアジア
イネをかけ合わせた陸稲品種。水
資源が限られているアフリカで、
水田がなくても畑があれば育つ優
れもの！病気や害虫にも強く、他
よりも30～50日も早く収穫で
きます！

ウガンダの気候は、一年を通し
て大変穏やか。季節の変化がない
ので、年中稲を植える事が出来ま
す。ここでは、畑に時期をずらし
て稲が植えられ、生育の全行程が
観察出来る様になっていて『種ま
き→田植え→稲刈り→脱穀』とい
う、日本では一年かかる過程が、
たった一日で観察できるんです！

コメの国秋田出身の私ですが、
実は恥ずかしいことに、稲作はど
れも未体験。だから、赴任前研修
で一番楽しみにしていたのがこの
「ネリカ米研修」でした。



ネリカ研修が行われた国立資源作物研究所。今年は秋篠宮殿下もいらっしゃった
そうです。米は細長い形です。この日、無事に「ネリカ3級」を取得しました●

「ミスター・ネリカ」として有
名な坪井専門家はこの方です。
(写真左下)

JICAウガンダ国コメ振興プロ
ジェクト専門家として、長年アフ
リカで稲作普及に携わっていらっ
しゃいます。途上国における米作
りへの熱い想いが、言葉の一つ一
つから伝わってきて、とても勉強
になりました。

「私がネリカ研究をしているの
は、論文を書くためではない。農
民が上手に沢山の米を作って、少
しでも生活改善できるお金になれば
良いと思って作っています。」

「ウガンダの米作りはほとんどが
有機肥料。世界的に見てもこれほ
ど化学肥料が使われていないのは
珍しい。土がとても肥えている
し、国土面積が広いから十分に土
を休ませる事が出来る。」

「殺虫剤を買うお金があるなら
肥料を買いなさい、と農民に言う
んだ。なぜなら、ここでは害虫が
互いに天敵になっていて、全体的
に生態系のバランスが取れている
から。」

2003年に始まったウガンダ
における「ネリカ米」の普及活
動。今では当時の約4.5倍以上
の栽培面積になったそうです。

米作りの奥深さを再認識する貴
重な研修になりました。

縄ないも初めてやったよ！



最後のひとごど

秋田のみなさんへ



JICA 青年海外協力隊
村落開発普及員／24-1 ウガンダ国派遣
佐々木 梢（ささき こずえ）
メール: sasakikozue@gmail.com

まめでらんしか～？
いつも私のわがママを許して、
応援してくれている家族や友人に
感謝の気持ちを込めて、
通信『シェカ ムノンガ』
*ニャンコレ語「いっぱい笑って」の意味
を始める事にしました。
誤字脱字ばかりだし・・・ドキドキだなあ

続くんだべが・・・？
まあんず、ゆる～ぐマイペースで
発信するど～！

おー（^o^）/**

SHEKA MUNONGA

佐々木梢の活動レポート

KOZUE SASAKI
C/O JICA Uganda Office, P.O. Box 12162,
Kampala, Uganda.